

令和7年度 港北地域学講座

第1回 外国人住民の声から学ぶ港北の今

実施報告

◆ 講座概要

日 時	令和7年11月22日（土） 10：00～12：30
会 場	港北国際交流ラウンジ（大豆戸町316-1）
協 力	港北国際交流ラウンジ
ねらい	・ 国際交流ラウンジの存在と役割を市民に広く知ってもらう ・ 外国人及び支える人たちとの意見交換を通じて多様性を理解する ・ 参加者が「外国人のためにできること」を考えるきっかけをつくる
参加者	22人（男性10人、女性12人） ＜内訳＞ 20代 2人、 30代 2人、 40代 5人、 50代 6人、 60代 2人、 70代以上 5人

- ◆ 当日のプログラム
- ・ ラウンジの活動紹介 (1)日本語教室 (2)ニューカマー子どもの教室
 - ・ 外国人住民の本音トーク
 - ・ やさしい日本語 紹介
 - ・ グループワーク テーマ「外国人と共に暮らすためにできること」

◆ 当日の様子

講座の冒頭では、港北国際交流ラウンジの設立の経緯や、これまでの活動について紹介がありました。主力事業である「日本語教室」や「ニューカマー子どもの教室」については活動を支えるボランティアの言葉から、そのやりがい伝わってきました。

続いて行われた外国人の本音トークでは韓国・ベトナム・ギリシャ出身の方々が、日本で感じた不安や習慣の違いを率直に語り、参加者からは「日本人同士でも同じ難しさがある」と共感の声が広がりました。やさしい日本語の重要性についても学び、最後のグループワークでは「外国人と共に暮らすためにできること」を話し合い、共感や新たな気づきを共有しました。



◆ 参加者アンケートより

- ・ 港北に住む外国人住民の本音や現状を認識することができた。
- ・ 住民としての外国人の方にとても興味がわきました。
住んでいる地域にも興味が持てて地域とつながりたいと思いました。
- ・ 意思のある方々が思いを共有できることで一歩を踏み出せる、考えるチャンスになったと思う。
- ・ ラウンジについて勝手にハードルが高く感じていましたが、今回このようなイベントに参加して、とても身近なものに感じるようになりました。

